



集中コース夏の部開催報告 『森づくりへの扉』

遠くは四国から参加の方、近くは徒歩で参加の方...総勢九名の方々が集中コース夏の部に参加されました。梅雨明け宣言はまだでしたが、おかげさまで天候に恵まれた三日間でした。とはいえ、二泊三日はあつ

という間に終わってしまいました。森を知るため樹を知らましよう、樹木分類。直径を、樹高を測って、健康診断。頭脳が悲鳴の施業計画。チェーンソーを動かしてみても丸太伐り。伐倒後枝を払って玉切り造材。ウイ

ンチで寄せて寄せて簡単集材。この一連の流れの中で、ポイントを押んでいただけでしようか。「何か」を持ち帰っていただけただけでしょう。森林塾は「何か」を提供できたでしょうか。少しでも森林や林業のことを知りたくて参加をしたけれども、新たな疑問が発生してしまつた...家の近くの公園の樹で名前のわからない樹がある...など、疑問など、質問注文な

んでもお寄せください。わざわざ三日間でしたが、これでお付き合いが終わりではなく、何らかの形でお付き合いを

させていただければと思っています。

用語は外国語のよう?。イラストが頭にやさしい!。その後、小屋横の林にて樹木散策。



この道具、樹高も測れるんだあ~



まずは、丸太伐りからです!



この樹なんの樹???



指数の示す健康状態や、如何に

今回の内容 集中コース夏の部 7月31(木)~ 8月2日(土)

一日目

8時30分 鳥崎先生の山気小屋にて受付開始。

9時 講師の先生方の挨拶の後、塾生の方の自己紹介、インストラクターの紹介、事務局挨拶。オリエンテーション。日程説明。

9時40分 森林業の現状について、鳥崎先生の講義。
10時 樹木の検索の仕方。専門

12時 現場にて各班毎にプロット調査。二十メートル四方の標準地。胸高直径・樹高の測り方。この林の樹の年齢は五十五歳。

14時 小屋へ戻りデータ解析。健康診断をして、処方を決める。各班とも相對幹距比が十四半ば。人口密度ならぬ樹木密度は山手線並か?。

16時 施業計画の立案方法について鳥崎先生の講義。



「つる」に専念



バタバパタ...寄せます! 積みます!



ワンタッチなラダー



帽子をつけて木の間もスイスイ

17時 初日終了。

18時30分 交流会開始。バーベキューとやきそば。冷えたビールのもまいこと。

20時30分 交流会終了。...あれ、小屋の中からハーモニカの音色が...

二日目

8時30分 山小屋集合。日程説明の後、体操をして、早速現場へ。

9時 各班毎に保残木マーキング。そして、いよいよチェーンソー。始動方法

と禁止事項を習ったら、丸太伐りからはじめましょう。

11時 各班とも早くも伐倒方法の解説へ。

12時 現場にて昼食。

12時45分 伐倒開始。方向を決めて、受け口・追い口。つるは残して蝶番。間伐が進むにつれ、森の中にどんどん光が入ってくるようになる。

16時15分 途中、何回か休憩を取りながら今日の作業を終え、小屋へ。

16時30分

公園にてチェーンソーのメンテナンス。

17時 本日終了。

三日目

8時30分 山小屋集合。今日も体操をしてから現場へ。

9時 「ひっぱりだこ」を使った木寄せと間伐を各班交代で行う。玉切った材木が綺麗に集められてゆく。

12時15分 今日現場で昼食。虫除け

13時 にと小さな火種を保科先生。ロギングトラクタとキャ

タトラによる集材デモンストレーション。

14時 作業終了。保科先生総評。小屋へ戻り、質疑応答。

15時

島崎先生総評。これにて集中コースは終了。解散。怪我なく無事作業を終えて頂いたこと、間伐・集材

できいな森にして頂いたことに感謝致します。ご苦労様でした。

参加者/伊藤さん、小野沢さん、笹原さん、島田さん、関川さん、長谷川さん、平松さん、松岡さん、古田さん

講師/保科先生、島崎先生
スタッフ/川島、後藤、早川、坂野

次回以降の内容

第九・十回
8月22・23日(金土)

伐出

間伐の現場で、倒した木を林道端まで出してきます。携帯式のウィンチャや林内作業車で集めます。交代で間伐の続きもやってみましょう。8時30分に島崎先生の山小屋

集合。
一日目が島崎先生、二日目が保科先生の担当です。

なお、23日(土)には鳩吹公園で「まほら伊那地球元気村」が始まります。相当の混雑が予想されますので駐車場などご注意ください。

第十一回
9月19日(金) 見学

倒された木はどこへ運ばれどくなつてゆくのか。

材木市場などを見学する予定です。詳細は追ってご連絡します。

第十二回
9月20日(土) 枝打ち

いよいよお待ちかね、枝打ちです。ぶり縄の作成から木登り、そして枝打ちです。子供の頃に帰ってまず木に登る練習、高さに慣れたら枝打ちです。何のための枝打ちか、という目的を見失うと時期や方法を間違えてしまいます。そのあたりをしつかり聞いてください。

担当は
保科先生
です。



リレー通信

滝口 邦夫

毎日・毎週・毎月同じような動きの中で、決まったレール上を走り、趣味という駆で少しリフレッシュをしながら定年を迎えるサラリーマン生活に?????を感じたのは、人生の終盤に入る五十歳の頃であった。大きな人生の転換期である「定年」は会社の指示でなく自分で決める事にした。多くの場所を見学し、講習会などは進んで参加し、二〇〇二年「KOA夏の集中講座」の前、部長にこのことを申し入れ、次期担当者の選



任をお願いし、現在に至っている。

二〇〇三年通年コースまでの四年間、何をしようか? 「自然環境」「こみ問題」「教育」など何かしたい思っているが見つからなかった。たまたま、「三重県環境博」が一九九九年に開催され二百近いグループや企業が参加した展示会で一日楽しく過ごせた。その中に現在月一回参加している「鎮守の森を夢見る会」があった。三重県美杉村という銘木の産地で、今も葉枯らし間伐を行っている地域の中で、女性が中心となり先祖の植林を自然林に戻す活動をしていた。動力を問わず、間伐材の売上と森林コナサートで活動資金を得ているグループである。ここが私の「森林活動」への初めの一歩となった。

この「鎮守の森を夢見る会」に参加することで、森林を中心とした自然の接し方を吸収することになり、森に対する同じ思いの人たちと

かかわることになった。三重県グリーンボランティア「森林づくり三重」に入会し、熊野のかやの木会では「なすび切り間伐」、大宮の吉田林業では「百年の森」、速見林業・鈴鹿森林組合での森林研

修会、桑名の佐藤林業などの林業家と会うことになり、森を守って行くことが「山好き」で通してきた私に似合っていると感じた。この活動中に「紀伊半島三県森林ボランティア交流会」などが重なり、里山などの自然保護を中心に一挙に社外の知人・友人を増やすことに繋がった。

KOA森林塾を知ることになったのは、ボランティアでは技術の向上が進まず、どうしても遊びとの共用から抜け出せないジレンマに関連の研修会は何でも参加してやろうと考えているときに、KOAの卒業生が当会に入会され話を聞いての応募となった。夫婦でのドライブ時に伊那谷の場所を確認したのが昨年春で、今に至っている。

幸いなことに我が家は、KOA森林塾以外夫婦での参加が中心で、居間は森林関連の資料や書籍・工作物があるふれそうになつても誰も文句を言わない。自宅への電話も本人不在でも話が通じることである。KOA森林塾のみなさんの名前も我が家には知れています。

いろんな研修会・講習会で知りえたことで、森林に関わり自然を親しむ人たちが如何に増やすか苦心しています。林業家には体力的に無

理か?自然観察?まずは仲間を増やそうと思っ

今年通年コースの終了に合わせて、新しい道が見えてくるとより楽しい活動が出来ます。まだ、二年間は研修会の参加が中心の生活を進めます。面白くて楽しい研修会があれば声をかけてください。

リレー通信

私にとって森林塾とは?
重松 明典

みなさん、こんにちは。通年コース一年目の重松です。私は田舎暮らしを充実させる手段として、里山の維持・管理技術を習得することを目的に、森林塾に入塾しました。ちょっとわかりにくいですが、自己紹介を兼ねて、私が森林塾に参加するに至った経緯を書いてみたいと思います。

幼少の頃、体が弱かった

私に少しでも体力を付けさせようと考えた父は、休みに私を田舎へつれ出し、山菜取り、虫取り、落ち葉や木の葉拾いと、里山で遊ばせてくれました。その影響が、キャンプ、軽登山やパラグライダー等のアウトドアスポーツが好きになり、息詰まったときや疲れ切った時、身近な樹の生えている場所に行き、木漏れ日、小枝がそよぐ音、虫や鳥の声に浸ることでリフレッシュするようになり

した。そして、将来は、「樹木が身近にある田舎に自分で丸太小屋を作るぞ!」と夢を持つようになりました。しかし、都会の仕事で生活の糧を得ている一般サラリーマンにとって、田舎に生活の場を造ることは難しいことでした。仕事の忙しさを理由に、まずは資金の準備だ、情報収集と技術の習得だ、と自分に言い聞かせながら、「田舎暮らしの本」、「ウッドライフ」、「パーマネットカルチャー」関連の本を読むだけで、実際の行動は起こしてきませんでした。

ここ数年、会社倒産、雇用



調整と色々なことが身近に起こり、今の生活が将来に渡って約束されていないことを思い知らされました。そして、やりたいことは、今やり始めなければ人生を後悔すると思ひ、今年、一步を踏み出しました。週末田舎暮らしの拠点として、群馬の荒れた山の一部を購入したので、さあ、もう後には引けません。目標は現代に対応した山との共生・・・。

かつて日本人は山から肥料として落ち葉を、用材として間伐材を、エネルギーとして薪を、食料として山菜や木の實を得ていました。人々の暮らしと山が密着し、効果的に共生していたのです。まず、この生活技術を学ぼうと調べました。しかし、都市化、近代化の波を受け、人々が山の恵みを利用しなくなり、先人が培ってきた知恵や技術の伝承が途絶えてしまっていました。今、山の恵みを利用する方法を学びたいと思っても、体系的に体験学習する場が無いのです。各地に発足している市民の森林保護グループの活動も、保全が主目的で生活に密着した森林活用をイメージできるものはありませんでした。

いた鳥崎先生の教えでした。森の利用目的を自由に考え、森をデザインする。そこには特別な決まりはない。ただし、生えている樹木の名前と性質を覚えることは必須である。特に種類の多い広葉樹の名前と性質を知ることが、森づくりの重要な基礎である。そして、どんな樹木がどのように生えているか、実際自分の目で調べることで、森がより身近になり、楽しみが倍増する。言葉の端々から、鳥崎先生が樹木を知り、森を慈しんでいる感じが伝わってきました。その先生が「森づくりは、基礎知識さえ身につければ、数日を費やすだけで、楽しみながらできるので、庭木の手入れと同じなのです。」と語られているのです。この先生が指導する森林塾なら、私が求めている山と共生する技術を学べると思ひ、森林塾に入塾しました。

最後の頼りは、七年前に目にした「森のデザイン維持・管理・・・人が森と共生するために・・・」に掲載されていた鳥崎先生の教えでした。森の利用目的を自由に考え、森をデザインする。そこには特別な決まりはない。ただし、生えている樹木の名前と性質を覚えることは必須である。特に種類の多い広葉樹の名前と性質を知ることが、森づくりの重要な基礎である。そして、どんな樹木がどのように生えているか、実際自分の目で調べることで、森がより身近になり、楽しみが倍増する。言葉の端々から、鳥崎先生が樹木を知り、森を慈しんでいる感じが伝わってきました。その先生が「森づくりは、基礎知識さえ身につければ、数日を費やすだけで、楽しみながらできるので、庭木の手入れと同じなのです。」と語られているのです。この先生が指導する森林塾なら、私が求めている山と共生する技術を学べると思ひ、森林塾に入塾しました。

昔話には山生活のノウハウがぎゅぎゅ詰まっています。とが多く、聞き逃したときには悔しい思いをします。今、群馬の土地は森林塾で習った樹木分類の復習を兼ねて、現状把握を進めています。図鑑を片手に樹木の名前を調べる作業は時間がかかりますが、とても楽しい一時です。今後、一年程度、植生と周辺の自然も合わせて調べてから、デザインを決めて、手入れをしていくことを考えています。

鳥崎先生が指導する森林塾なら、私が求めている山と共生する技術を学べると思ひ、森林塾に入塾しました。これまで受講してみても、期待以上の講義内容に驚き、喜んでいきます。植林、下草刈り、樹木分類、測量、間伐、山道具の手入れ、炭焼き、キノコ菌打ち、ぶり縄、ロープのアイ加工、各樹木の利用価値等、森林塾が体系的に教える山造りの技術・知恵は、私が求めていた山と共生した田舎暮らしに必要な不可欠な技術です。特に、休息中に鳥崎先生や保科先生が話される、



「愚公医山堂」なる名称とともに活動内容が気になる方は、ぜひホームページへアクセスして下さい。ただいま会員募集中とのことです。ホームページアドレス <http://www.trimwoods.jp>

鳥崎山林研修所尾瀬山森林塾が群馬県は片品村にて開設されることとなりました。今年度の予定は、十月二十四日～二十六日の短期集中コースとなっております。事務局は、森林塾インストラクター・山小屋管理人の「もも」椎原さんと森林塾OBの「村長」塩田さんです。興味のある方は、開催場所や内容などの詳細をお二方にお問い合わせて下さい。

食するにはまだまだ工夫が足りません。トマトなら、トマトソースにしたりと応用が利くのですが、キュウリは・・・。どなたか、キュウリのよい保存方法をご存知でしたら是非教えて下さいませ。(ピクルスにするという方法以外でお願いします。)

おわりに 各地のお祭りや花火大会もあらかた終了して、遅い夏がやってきたけれど、お盆が過ぎたらもう秋かも。お米や野菜も心配だけれど、きのこも心配、早くも薪すら心配。ということ、薪ストーブやペチカをお持ちの皆さん！来るべきシーズンの薪は大丈夫ですか？。針葉樹でも良かったら、森林塾で間伐した材を使って下さい。



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。 TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp sh-sakano@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062 (開催日) H.P. <http://www.koanet.co.jp>